

平成25年度第14回（通算16回目）
福島県原子力発電所の廃炉に関する安全監視協議会及び安全対策部会
開催報告書

1 日 時 平成26年1月16日（木） 11:40～15:30

2 場 所 福島第一原子力発電所

3 出席者 別紙出席者名簿のとおり
(1) 廃炉安全監視協議会構成員（専門委員、県生活環境部、関係市町村）
(2) 説明者 東京電力(株)

4 調査行程

(1) 調査項目

ア 4号機オペレーティングフロア（使用済燃料プールからの燃料移動作業実施状況）

イ G6北、G4南タンクエリア（堰からの漏えい防止対策実施状況）

5 調査結果

◎菅野主幹挨拶

本日は廃炉安全監視協議会により、4号機の燃料移動作業、タンクエリアの堰の対策の実施状況について確認をさせていただきました。今回の現地調査について、専門委員の先生よりご質問をお願いします。

◎質疑応答

○石田委員

4号機の燃料移動について、スムーズに作業が行われていた。作業は年内いっぱい続くと思うが、余裕をもった作業環境で、作業員の安心のため被曝の低減に努めていただきたい。また、3号機からの線量影響を遮蔽するために鉛やタングステンの板を設置予定とのことだが、迅速に対処していただきたい。

●東京電力

了解しました。

○長谷川委員

4号機の作業が順調に進んでおり、感慨深い。また、フランジタンクについて、内部の状態がどうなっているかが気がりである。タンク外面に錆が見られるが、浜風によるものか、内面の腐食が進行しているのかも気になる、タンクを空にしたときに確認するべきではないか。

また、ウレタン塗装については、通常、管理区域のタンク床面などの塗装は表面が滑らかであるべきだが、本日確認したところ表面がザラザラしていた。塗り方にムラがあるのではないか。また、タンクエリアの堰内面の汚染がないようにと以前お願いをしたが、今後とも対策をお願いしたい。

○藤城委員

4号機の作業がスムーズに進んでいた。これまでの作業において、異常についての所見などは出て来ているか。

●東京電力

今のところ、4号機の燃料移動作業において異常は特にはない。

○藤城委員

タンクの堰について、先を読んで、先行的に対策をとっていくべきである。また、タンクの基礎の構造について、今後、新たに設計するものについてはしっかりとしたものを作って欲しい。

○高坂専門員

4号機の燃料移動はスムーズに行われており、今後も手順どおり、しっかりと慎重に作業を行って欲しい。

また、今回、タンクエリアの目地のコーキングやウレタン塗装について確認した。また、G6やJ1のタンクエリアについては、目地に止水材を入れており、漏洩対策や基礎の構造が万全になっていると感じた。新しいタンクについては対策をとり、万全を期すようにし、タンクからの漏洩がないようにすること。

●東京電力

基礎の構造については、今後のタンクについて、対策をとって万全にしていく。

○長谷川委員

新聞報道によれば、発電所敷地境界の線量について、X線を考慮すると、年間1mSvを超えたとのことである。東京電力の放射線管理は電力会社の中でもしっかりとしていると思っていたが、どうしてこのようなことになったのであろうか。また我々としても見過ごしてしまっていたことを反省している。線量をきちんと測定するように管理するべきである。

○高坂専門員

溶接タンクについて、より信頼性を高めたものにするべき。できるだけ良いものを作れるように事前検討を万全にしていっていただきたい。

●東京電力

溶接型のタンクもできるだけ信頼性を高くしたい。また、今考えているのは、フランジタンクに貯留している汚染水をALPSで浄化して、処理水を溶接型タンクに貯留していくことを検討しています。

○高坂専門員

処理水を貯蔵するとなると放射性物質の濃度が37kBq/cc以下となるので、国の溶接検査の対象外ということになってしまう。その際も、タンクの信頼性を確保するために東京電力の社内での溶接検査を実施して信頼性を確保して欲しい。

●東京電力

ご指摘のとおり、溶接検査は不要となりますが、使用前検査により確認していくことと

なります。

●東京電力

タンクエリアのウレタン塗装について、滑らかな状態ではないというご指摘ですが、現場を確認し、不具合があれば直したいと思います。スプレーで塗装しておりましたので、飛沫により、ザラザラになっている可能性があります。コンクリートによる堰の嵩上げの際に、再度塗装をする機会がありますので、その際に対応したいと思います。

●東京電力 小野所長

敷地境界の線量8mSvについては、計算による評価値だけを示すのではなく、実測による測定値をお示しできるか検討しております。また、ALPSによる処理で敷地境界の線量は低減できますので、実態に則した評価としたいと考えております。

○長谷川委員

実測することも可能であるので、是非検討していただきたい。

○浪江町

本日、堰の高さについて、H4エリアタンクの堰の高さが全体では75cmであったが、部分的に30cmとなっている箇所があったが、最終的にはどの程度の高さになるのか。

●東京電力

堰の高さについては、タンクの容量やエリアの面積に応じて変化する。平均すると90cm程度となるが、H4エリアについては、75cmとなる。

○高坂専門員

タンクの堰の高さは、雨水を貯めることによりタンクにかかる浮力を考慮しているか。

●東京電力

ご指摘のとおり、タンクには浮力がかかるため、浮力がかかっても問題がないかどうか確認しております。

◎菅野主幹まとめ

4号機の燃料移動は昨年11月から実施されておりますが、慎重に、スムーズに行われていました。今後も慎重に、一年にわたる作業について、慣れによるマンネリ化がないように。タンクエリアについては、漏洩が続き、県民の心配の種となっている。タンクの溶接型へのリプレースが行われるが、それまでの間のコーキングなどの漏洩対策を早急に完了すること。また、専門委員からの指摘にもありましたが、タンクの信頼性の向上のための検査の見直しや対策を引き続き、着実に行うこと。対策については、廃炉安全監視協議会により確認をしていく。

また、昨日ストロンチウムのデータが公表されたが、昨年6月からのデータに不備があったということであるが、重要な測定であるので、再発防止対策を行い間違いのないデータをしっかりと迅速に公表すること。

◎小野所長挨拶

4号機の作業は一年にわたる作業期間という点で当社としても初めての作業になる。慣れの問題がないようにしたい。また、タンクエリアの堰については、タンクから漏らさないため、溶接型にリプレースする際も、溶接型だから安全とは思いつまないようにしたい。また、タンクエリアのウレタン塗装はなるべく早く実施していきたい。また、ストロンチウムの方は、6月からのデータについて、データの分析に時間をかけていた。今後とも皆様の忌憚のないご意見をお願いします。よろしくお願ひいたします。

以 上



○安全対策部会現地調査
（覆土式一時保管施設）
写真は既設の第1槽



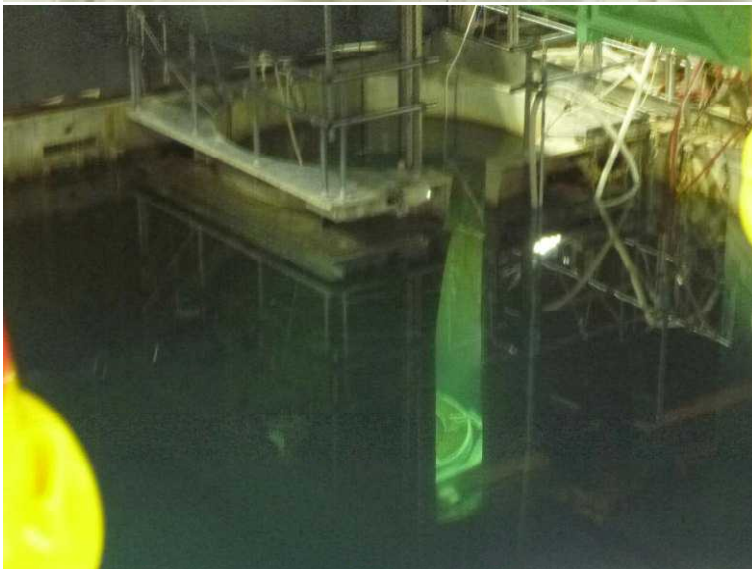
○安全対策部会現地調査
（覆土式一時保管施設）
海側に設置された地下水
測定ポイント



○安全対策部会現地調査
（覆土式一時保管施設）
第4槽設置予定地付近に
仮置きされている移動式全
面テント

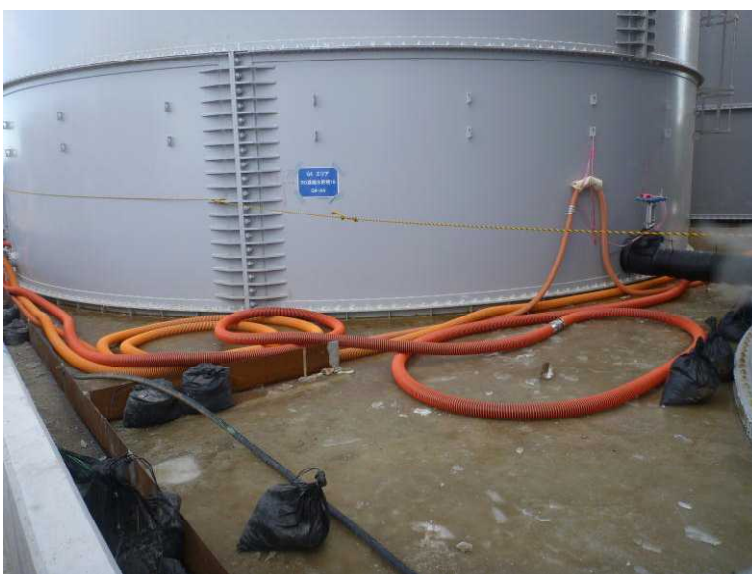


○現地確認
(4号機 燃料取替機)



○現地確認
(4号機使用済燃料プール)

使用済燃料をキャスクに
装填する作業中



○現地確認
(G4タンクエリア)
鋼製の仮堰は、堰内の塗
装施工のタイミングで撤去
するとのこと。



○現地確認
(G4タンクエリア)
基礎コンクリートのつなぎ目のシール施工



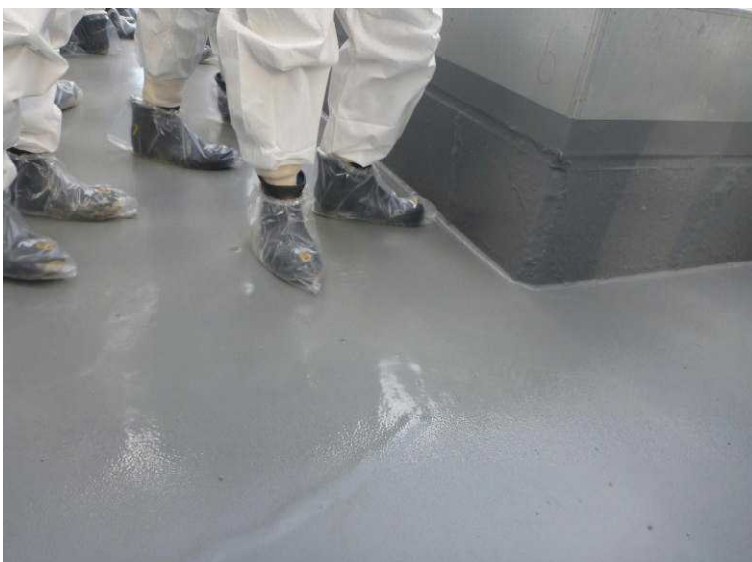
○現地確認
(G4タンクエリア)
堰の高さを75cmに嵩上げしている箇所



○現地確認
(G4タンクエリア)
堰内のウレタン塗装の施工状況の確認



○現地確認
(G4タンクエリア)
タンク底部の塗装施工状況の確認



○現地確認
(G4タンクエリア)
基礎のひび割れ箇所に塗装をしている箇所



○現地確認
(G4タンクエリア)
鋼製の堰のつなぎ目の塗装の状況



○現地確認
(G4タンクエリア)
鋼製の堰のつなぎ目の塗
装の状況



○質疑応答



○質疑応答